



HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

研究協力者：下線はグループリーダー

1 看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

高橋 弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）

千葉 鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）

中垣 郁代（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）

久光 由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門看護師）

大野 典子（日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師）

橋本 美鈴（大阪はびきの医療センター 感染管理認定看護師）

辻岡麻衣子（国立大阪南医療センター 看護部）

北畠 朋子（藍野短期大学看護学科）

鈴木 光次（アリス訪問看護ステーション）

立花 久裕（訪問看護のナーシング堺石津）

上原 優子（大阪大学医学部附属病院 精神保健福祉士）

2 介護保険施設における教育と研修のアプローチ

井田真由美（堺市立総合医療センター 看護部）

泉 柚岐（信愛女学院短期大学看護学科）

西口 初江（羽衣国際大学人間生活学部）

豊島 裕子（大阪市立総合医療センター 看護部）

熊谷 祐子（みのやま病院 看護部）

岡本 友子（足立病院 看護部）

繁内 幸治（BASE KOBE 代表）

石原 章雄（あいラブ天王寺ケアプランセンター）

3 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山 美穂（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

橋弥あかね（大阪教育大学 教育学部 養護教諭養成課程）

工藤 里香（富山県立大学 看護学部）

高 知恵（大阪府立大学大学院 看護学研究科）

大川 尚子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

池田麻衣子（大阪府立今宮工科高等学校 養護教諭）

眞弓 靖子（大阪府立日根野高等学校 養護教諭）

賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）

研究要旨

COVID-19 感染症が拡大し、研究班メンバーは感染症看護にたずさわる専門職としての対応のため例年の研究活動が大幅に制限された。HIV サポートリーダー養成研修は年2回の開催を続けてきたが、やむなく第20回は中止し、第21回は対面講義からオンライン研修に変更した。オンライン開催になったことで、遠方からの参加者が増加したことはメリットであった。地域 HIV 看護・介護の質の向上と拡大戦略に向けて、① HIV サポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から全国に拡大して広報した。②介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修は中止した。③学校基盤の HIV 予防教育の強化のために、高等学校教諭との連携を強化し、オンラインやオンデマンドで講義を継続した。公益社団法人大阪府看護協会のように HIV 陽性者のケアと HIV 感染予防について、協力的な都道府県看護協会を増加させる取り組みが必要である。

研究目的

地域における HIV 看護・介護の質の向上をはかるために、企画した研修前後の知識と態度の変化を明らかにし、教育効果のアップを図る。

研究方法

(公社)大阪府看護協会と連携しながら、医療職と看護学生・養護教諭課程学生などを対象に HIV サポートリーダー養成研修を実施する。HIV 研修前後の知識・態度の変化をアンケート調査した。

(倫理面への配慮)

アンケートの実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、記入した内容については、個人が特定されないように配慮すること、調査結果は研究班のホームページで閲覧可能であることを伝えた。調査について、大阪府立大学看護学研究科研究倫理審査(申請番号 2019-24)の承認を得た。

研究結果

I 看護職のボトムアップとエンパワメント

(公社)大阪府看護協会との協働により、第21回までの累積受講者数は434名である。今年度はオンライン研修に変更したことにより、近畿圏外からの参加者が増加した。看護師・助産師・保健師以外のパラメディカルスタッフの参加があった。

HIV 診療拠点病院ではなく、HIV 専門医がいなくても HIV 検査をしている限り、初期対応ができることを目標に、今後も HIV サポートリーダー養成研修を継続し、看護職のボトムアップを図る。特に臨床

で働く看護職が高校で出前講義をおこなう取り組みは他に無い取り組みであり、普及に努めたい。(公社)大阪府看護協会のように HIV 陽性者のケアと HIV 感染予防について、協力的な都道府県看護協会を増



加させる取り組みが必要である。

II 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

今年度は COVID-19 感染症が拡大し、高齢者への感染予防のために、介護施設での研修は中止した。

介護施設の職員への標準予防策についての教育はまだ不十分である。知識だけではなく、手袋・マスク・エプロンの正しい装着やケア後の処理についても、実技を2回おこなう機会を作るなど、工夫が必要である。標準予防策について自信を持っていたと、感染力の低い HIV 陽性者の受け入れもスムーズに進むと予測できる。

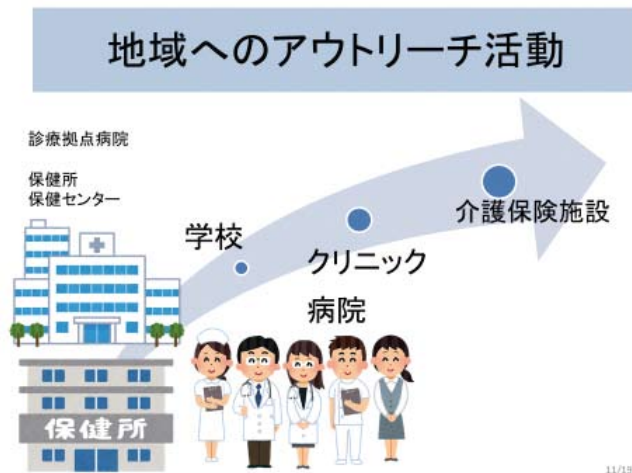
III 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

従来は看護職が高校の各教室に出向いて、2コマ連続で「おつきあいのマナー」「性感染症予防」について出前講義を実施したが、COVID-19 感染予防の

ためにグループ単位やクラス単位の対面講義は中止した。おつきあいのマナーカルタを使用した少人数グループによるクラス単位のワークショップは、今後オンラインゲームの開発をおこなうことになった。コミュニケーションスキルの向上をはかりながら、楽しく性感染症予防を学ぶための方略を工夫することが課題である。

知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし



考察

HIV サポートリーダー養成研修と高校生への出前講義、(公社)大阪府看護協会が主催する看護職研修、大阪府教育委員会が主催する研修、高校生への出前講義について、今後とも必要性が大きい。

結論 看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来たので、さらに研修・教育内容を洗

練させ、質の向上をはかることが求められている。

(公社)大阪府看護協会のように HIV 陽性者のケアと HIV 感染予防について、連携できる都道府県看護協会を増加させる取り組みが必要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1. 論文発表

該当なし

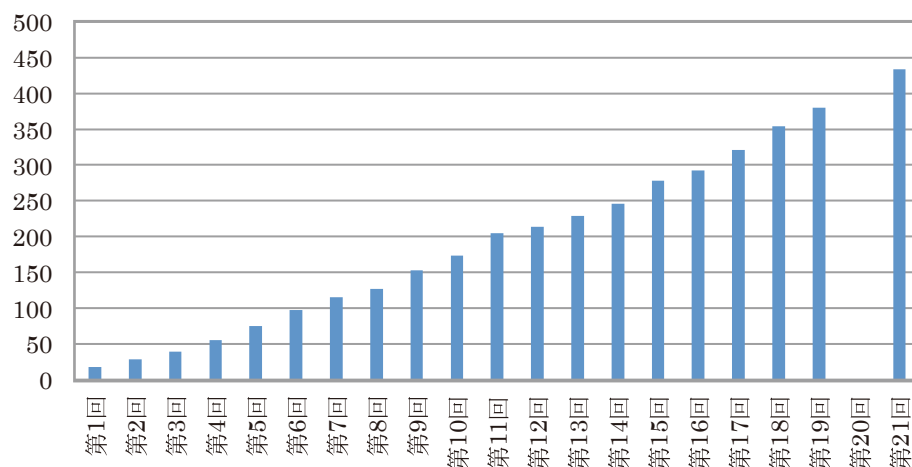
2. 学会発表

1. 佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、工藤里香、立花久裕、豊島裕子、大野典子、白阪琢磨：地域 HIV 看護・介護の質の向上と拡大戦略 10 年間の成果と展望。第 34 回日本エイズ学会、令和 2 年 11 月、千葉

HIV サポートリーダー養成研修のまとめ（第21回まで）

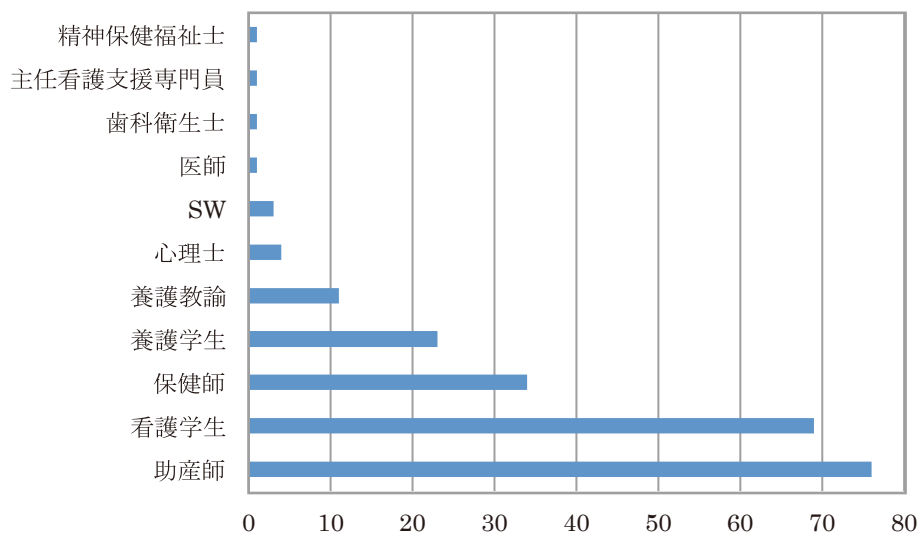
1. 受講者数

これまでの受講者数は434名である。



2 受講者の職種

看護師以外の職種は52%であった。

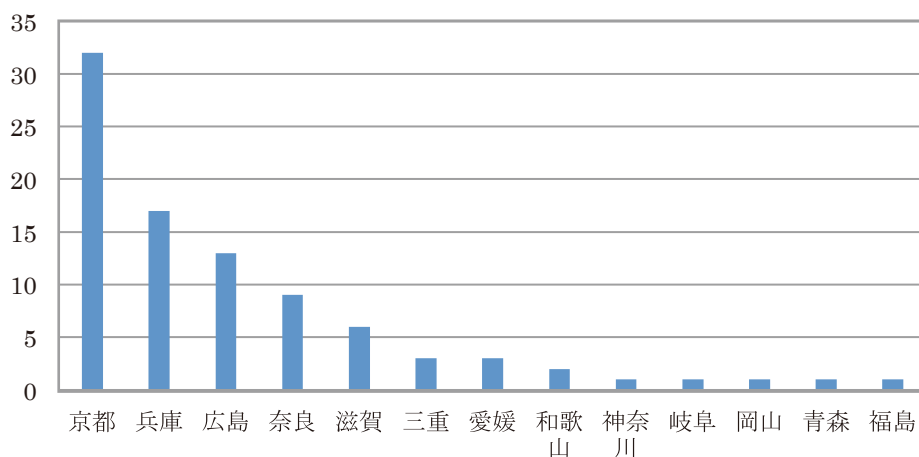


3. 調査票の回収数（21回のみ）

参加者54名 回収数50 回収率93%

4. 受講生の居住地

受講生434名中90名（21%）が他府県からの参加であった。

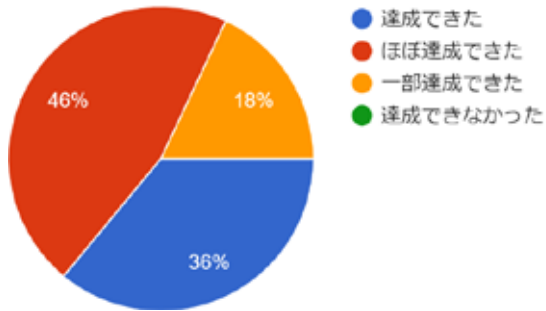


5. 研修目標の達成度

研修目標：セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応・介護職研修・高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

研修目標の達成度について（研修目標：セクシュ...
予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る）

50 件の回答

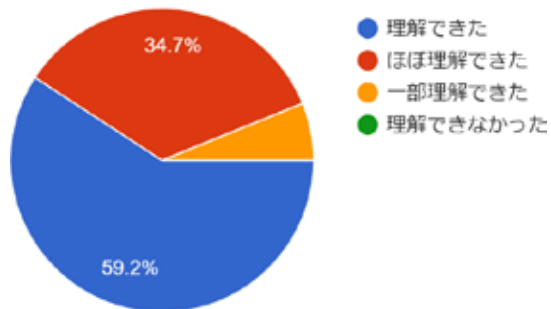


「達成できた」「ほぼ達成できた」者が82%であり、研修内容が現場の声を多く反映し、理解しやすく工夫された内容であったことが、後述の自由記載からもうかがえる。

6. 講義別理解度

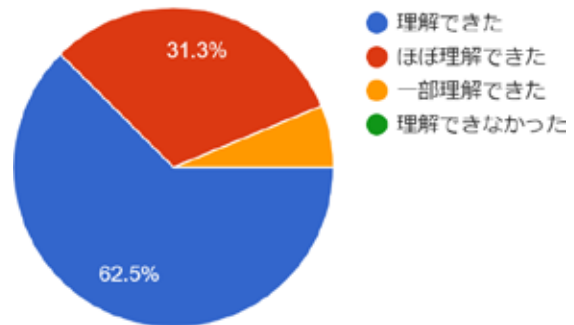
講義内容の理解について
「近畿・大阪のHIV感染の現状」

49 件の回答



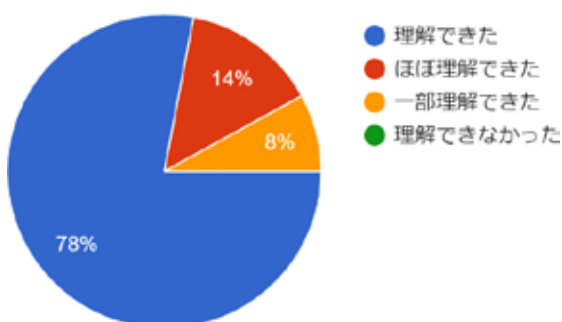
講義内容の理解について「HIVの最新治療」

48 件の回答



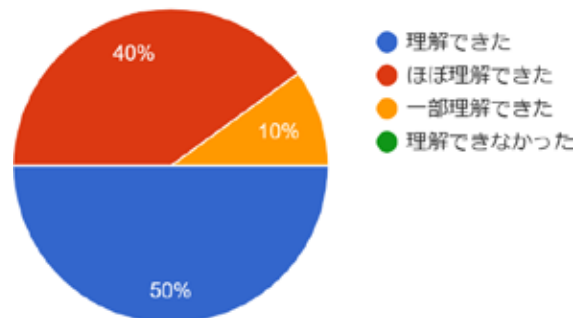
講義内容の理解について「性の多様性」

50 件の回答

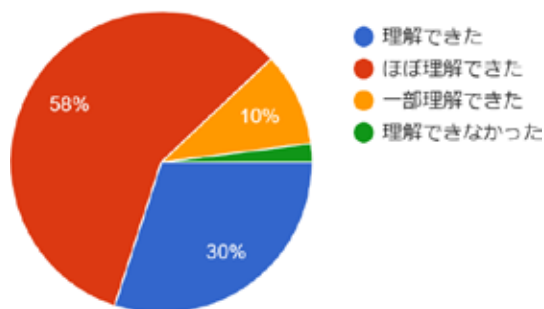


講義内容の理解について「薬害エイズ」

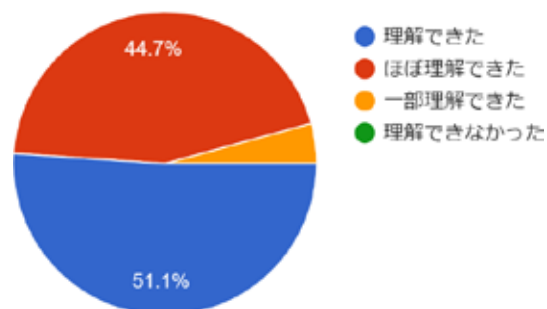
50 件の回答



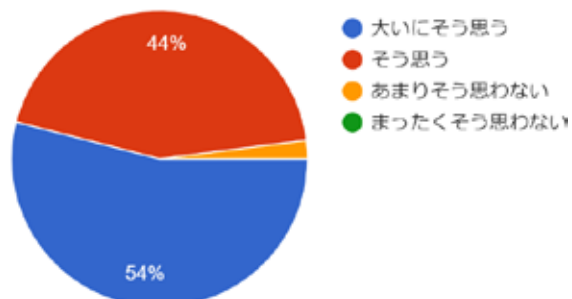
講義内容の理解について
「HIV陽性者の支援（地域、ピア）」
50 件の回答



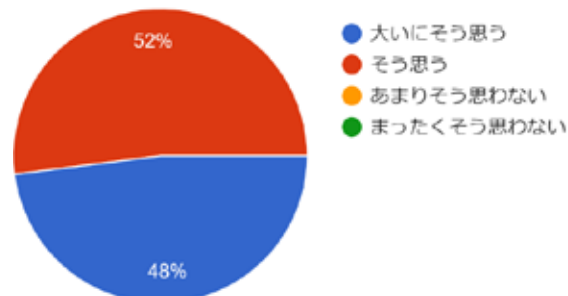
講義内容の理解について
「HIV陽性者の理解と初期対応」
47 件の回答



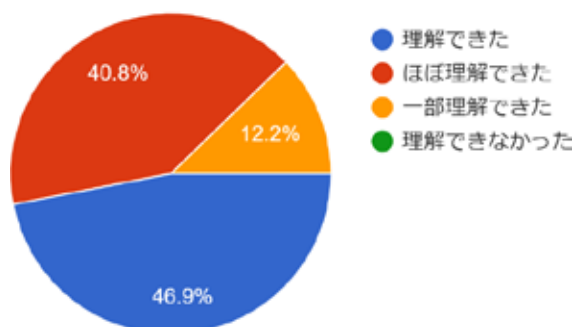
研修後の自分自身の態度について
「HIV看護について興味を持っている」
50 件の回答



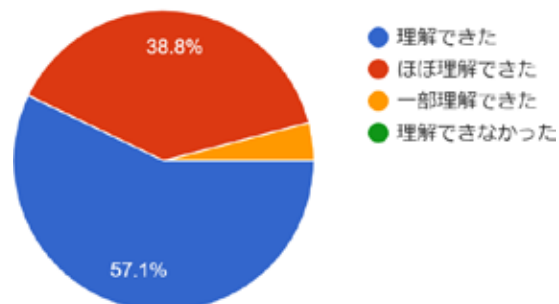
研修後の自分自身の態度について
「性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい」
50 件の回答



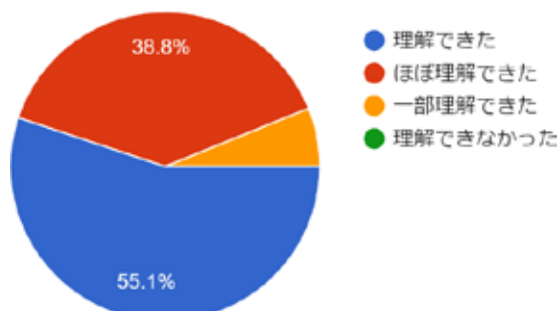
講義内容の理解について
「DVDを使用した出前講義」
49 件の回答



講義内容の理解について
「若者へのHIV/AIDS予防教育」
49 件の回答

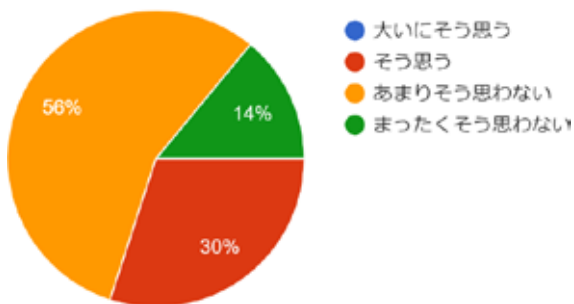


講義内容の理解について
「コンドーム達人講座」
49 件の回答

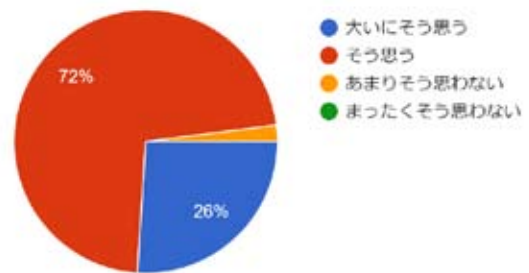


7. 態度の変化

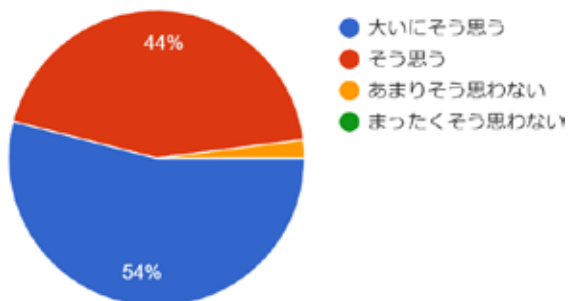
研修後の自分自身の態度について
「性のことを人前で話すのは恥ずかしい」
50 件の回答



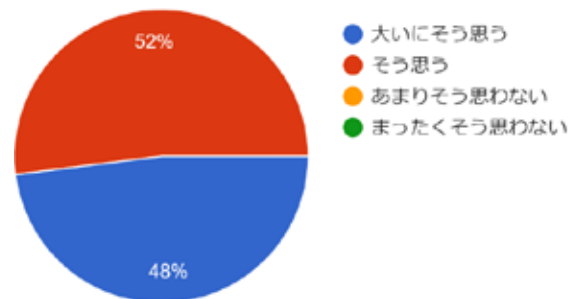
研修後の自分自身の態度について
「自分自身の性についてきちんと向き合っている」
50 件の回答



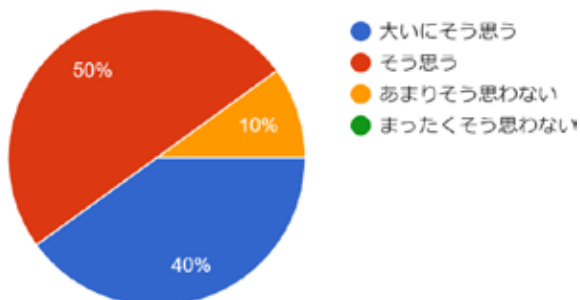
研修後の自分自身の態度について
「HIV看護について興味を持っている」
50 件の回答



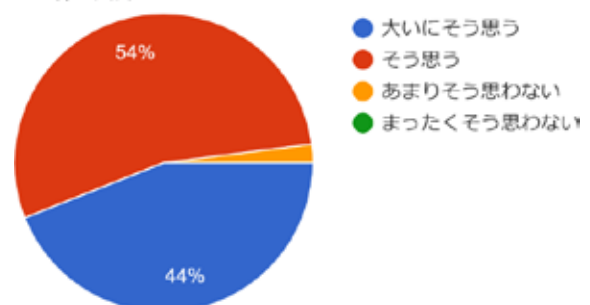
研修後の自分自身の態度について
「性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい」
50 件の回答



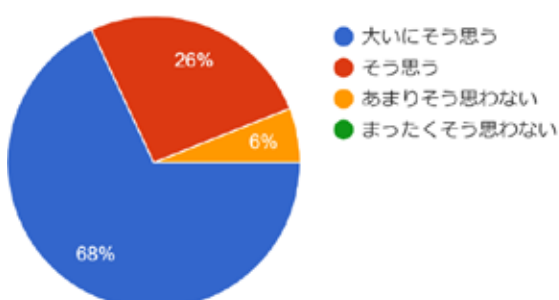
研修後の自分自身の態度について
「HIV予防教育の出前講義に積極的に関わりたい」
50 件の回答



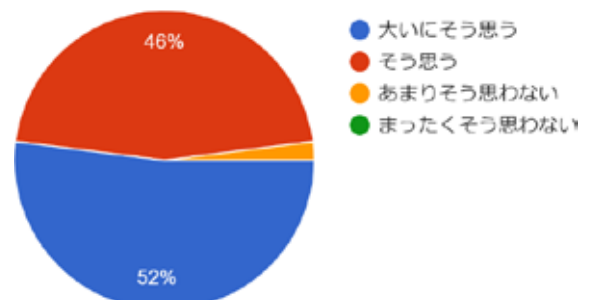
研修後の自分自身の態度について
「セクシュアルヘルスの増進について学びたい」
50 件の回答



研修後の自分自身の態度について
「職場で、HIV陽性者のケアへの準備を整えたい」
50 件の回答



研修後の自分自身の態度について
「他者と深く関わることは喜びである」
50 件の回答



8. 自由記載の内容（令和2年度開催の第21回分のみ、原文のまま、すべて記載）

①看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

1. 高校生へ出前講座となると、公立学校は一律の授業カリキュラムなどもあり、出前講義を組み入れる時間を作ってもらうこと、そしてパイプ作りが課題だと思っています。大学や専門学校は専門分野の自由度も高く、時間を確保していただきやすい印象です。ハードルは高いですが、是非性を自認する思春期の高校生へ出前講座は実施していきたいと思っています。
2. 教職員ではなく、看護職の方に来てもらうことで新鮮さや生徒の興味も持つことができるため良いと思う
3. 保健師が行うものだと思っていた。している。看護師が行ってもいいものなのかと、不安がある。
4. 教育委員会や地域のネットワークにうまく繋がりがながら実施できるのが理想です。しかし大きな組織になればなるほど、融通が効きませんので、まずは小さなコミュニティから始めてみるのもいいですね。校長や教頭の異動で、学校の方針が大きく変わるので、養護教諭の連絡会などで繋がって、情報交換会から始めるのも大きな一歩につながります。自分の卒業校にアプローチするのもいいですね。まずは1例目を実施するために、学校の方針を良くお聴きして、欲張らずにポイントを絞る方が、成功すると思います。職場については、所属先が民間なのか公立機関なのかによってアプローチも変わります。まずはやりたいという意思をいろんなところで発動するのが最も大切だと思います
5. 病院関係者へ出前研修ばかりを考えていましたが、将来をにう若者に教育が必要であるという視点を持つことができました。院内でも対応できるか検討していきたいと考えています。
6. 研修前は、学校側が講義を行ってもよいのではないかと考えていましたが、研修を受け、医療専門職が行うべきだという考え方に変わりました。職場については担当者の意見をよく聞いてもらっていることで理解は得られると思います。
7. 高校生を対象とした講義にあまり積極的ではない職場にいるため、業務としては難しいと感じている。また、自身も積極的ではない。
8. 子供たちが教師以外の専門家から性感染症やセクシュアリティについて学ぶことはとても重要であると感じました。養護教諭として、保健師や看護師など地域の多くの人と繋がりをもち、子供たちの学びを豊かにするコーディネーターになろうと思いました。
9. 来年から養護教諭として学校で働く学生です。成長途中にある子どもたちに性教育はとても大切だと思うので、学校では他の教員や保護者等の協力のもと性教育を充実させていきたいと考えています。しかし、私自身まだまだ知識が不足していたり考え方が浅かったりと課題がたくさんあるため、看護職の方や医療関係者の方の力を借りて、性教育を充実させていきたいです。教員とは違う視点ももっている他の職種の方に前出講義を実施していただけることは、学校にとっても子どもたちにとっても大きな意味があると思っています。
10. 実際携わらせていただいて、自分にもとても学びになっているのでこれからも関わりたい。職場ではエリア内の小学校にも出前講座を行っていることで理解はよいです。
11. 高校生と接することがないので、このような活動を看護職が行っていることに驚きと、良い取り組みであると感じました。性のことを話すことがオープンでない文化の中で、自分や相手を大切にすることを考えたり、偏見や差別について、考えるきっかけになり、自分の意見を持つことができれば、HIVの予防のみならず、日本を優しい住みやすい場所にしていけることができるのではないかと思います。
12. 看護職など、外部から出前講座としてお話をすることで、ぐっと突っ込んだ話ができると思うので、どんどん実施していきたいと思っています。しかし、現状として、外部講師への依頼方法がわからない、実施時間の確保ができない、講師料が必要になるなどの理由で実施されていないことが多いと思います。また、HIV / AIDS、性感染症の予防はとても大事だけれど、そこに行くまでに自分の身体について知ったり、異性の身体について知ったり、自分や周りの人を大切にしたり…という話を、もっと低年齢のうちから実施できたらいいなあと思っています。
13. 職場の理解は得られる体制にはしていますが、私が定年退職を考えなければならない年齢です。次につなげる職員を考えています。
14. 私が委託を受けている保健センターは、全く出前講座等を行っていないので、どのような講義を実際にされているのか、聞きたくても聞けなかったのですが、佐保先生が10月にいくつか講義に行かれるとのことなので、見学させていただけたら！と思いました。現場の声はリアルな感情が話の中に入るので、どんどんやっていくべきだなと実感しました！
15. HIVや性に関する知識はとても重要であり、学校という学びの場において出前講義などで児童生徒に正しい教育をしていただく機会があることは本当にありがたいことだと改めて感じた。自分が養護教諭になった際には正しい知識を教えるために、ぜひ看護職の方に講座をお願いしたいと思う。
16. 中学校への性教育を出前講義しています。病院で働いていると、通常業務との兼ね合いが上手くいかない時

があります。一部の人しか性教育をしないので、スタッフ全員の理解を得るのは難しいですね。働き方改革が言われる中で、出前講義のための打ち合わせや準備は、通常業務内では実施することが困難なのですが、時間外勤務(超過勤務)を付けることがなかなか出来ません。実際は、時間外や休みに準備することがほとんどです。出前講義に対するやりがいや必要性があってやるんだという思いだけで、やっているところがあるので、高校生への出前講義は、できたとしても継続して実施出来るのだろうかという思いがあります。

- 17.看護職のわたしでさえも HIV の正しい情報は、簡単に手に入らず。治療前の血液検査項目に HIV 感染症の有無もチェックしているが 今まで陽性者の方とは出会ったことはないが、もしも陽性の方が治療を受けるときは、どのように接したらよいのだろうかと思っていてるままだった。今回は、血友病薬害エイズのことを学びたくて検索しているうちに この研修の情報にたどりつきました。なので、日本国民 誰もが知っていることが当たり前になるよう 高校生のうちに正しい出前講義を受けられることは とても必要なことと思います。自分のからだのこと、心のこと、大切な人のからだのこと、心のことを 正しく知ることは、生きていくうえで知っておかなければならないことです。高校生だけでなく、いまの大人たちも知らないことなので 企業向けにも出前講義は必要だと思いました。一見、平和な社会に見えますが、生きにくさを感じている人は多く差別のない社会になるよう、生きやすくなるように まずは、身近な方々へ啓蒙から始めてみようと思います。
- 18.一般の看護職が高校で講義をすることに驚いた。自分にはまだ自信がない。
- 19.積極的に出前授業をお願いしたいです。また、ワークショップなどを取り入れ、生徒が体験的に学ぶことができるように努めていきたいと考えます。
- 20.必要なこととは思いますが、なかなかその実際を知る機会はありませんでした。この度、具体的に学ぶことが出来てご苦労も含めて大いに学びとなりました。
- 21.ワークショップは高校生も楽しく学べるなと思いました。
- 22.普段よく関わっている教員からではなく、病気になった時やしんどくなった時にしか関わる機会の少ない看護職から講義を受けるというのは、とても新鮮だと思います。自身の経験でも、高校生の時に助産師の方から子供が生まれるまでの過程を模型を用いてレクチャーいただいたことは、とても記憶に残っています。事前に学校の教員と講義内容についてしっかりと共有し、進めていくことが大切だと、講義を受けて感じました。
- 23.中学生や高校生に出前講義をする事は全く考えていませんでしたが、この研修に参加しその必要性を強く感じ

ました。若者に対する性教育に学校と協働し取り組んでいく事は今後の課題としたいです。

- 24.看護職が高校生に性の多様性や性感性症などについての性教育を行うことはとても良いと考えています。看護職は日々「いのち」と向き合う現場にいると思います。その日々の経験が講義にも反映され、高校生にとって様々なことを考える機会になると私は思っています。
- 25.養護教諭の立場だけでなく専門家の知識や経験を子どもたちに伝えてもらう事の大切さを感じました。
- 26.時代により高校生の知識や常識、慣習が変化する中で、出前研修は高校生の反応を見ながら行えるので、非常に有効だと思います。また、現場の教員と事前の打ち合わせ等も細かに行われているという内容を知ることができ、HIV 感染予防の啓発には性というデリケートな部分を扱うことで、心理的支援にも繋がるのだと感じました。自身が出前研修を行う際も、ただ単に HIV の知識を提供するだけでなく、性のことで生きづらさを感じている人の理解も同様に、大切なことだと伝えていけたらと思います。
- 27.看護職が地域の高校生に出前講義をしている事を知らなかったのですが、とても良い活動だと思いました。学校の先生には恥ずかしくても、看護師ならば、学生からは性の専門家？だから恥ずかしいことでも聞きやすいかもしれない。実際に感染症になったらどうしたらいいの？どこに行けば良いの？等具体的にイメージしやすいかもしれないと思う。
- 28.養護教諭として、出前講義を頼む窓口について様々な人と繋がることで、今回は学ぶことができたと考えます。また、事前の調節の大切さを知り、今まで、出前講義を頼む具体的手段や、方法、打ち合わせについて考えたことがなかったので、そこが私の課題だと思いました。
- 29.自分の高校に助産師の方がいらっしゃって、生と性について講義をしてくださったとき、涙ぐんでいる生徒が多かったです。臨床でいのちと関わっている看護職だからこそ、伝えられることがあると思います。自分が人前で講義をするイメージはなかなか湧きませんが、職場の理解・協力をいただき、学校・養護教諭と連携し、十分な準備を重ねることが必要だと思います。また、生徒個人個人に対する倫理的配慮も、関係者全体で取り組むべき重要な課題であることを学びました。また、短い講義時間の中で、伝えたいことをできる限り伝えるように工夫することが重要だと思います。
- 30.高校生は、アイデンティティの形成途中で、性に関する成長は個人差が大きく、集団に対するアプローチは限界があると思うので、出前講義の内容を豊富にして全てを伝える必要は無いかなと思いました。感染予防・避妊のために最低限守ってほしいこと、自分自身は愛されて生まれてきており、人を愛する延長線上に性行

為があるのは正常ということが伝われば十分かと思えます。もしもっと詳しく学びたいという人は、このサイトを見るといいよ、質問があったらここに相談すればいいよというように、正しい情報を得る方法を提示するだけで、スマホ世代の高校生ともなれば自分で学べると思いました。高校生の性行為は一般的に容認されておらず、不純なものにとらえられがちです。リスクが高いからと、高校生を性行為から遠ざけようとしても、反発しますし、隠そうとして正しい行動ができない可能性が高くなります。それは感染リスクや望まない妊娠を増加させる危険性があります。個人差があるので一概には言えませんが、大人が想像している以上に、今の高校生は成熟しています。性行為を完全に容認するのではなく、相手への責任の持ち方や正しい感染予防・避妊方法を伝え、責任が持てるなら正しく付き合いなさいと教え、信じて見守るのが大人の役割だと思います。高校生の出前講義を通して、高校生の周りにいる凝り固まった考えの大人たちへの教育が必要だと感じます。率直に思うことを書いたのでの的外れでしたら申し訳ありません。

31. 関東で、80～100名程度の関わった学校の生徒さんを連れて、TRPやRRTなどのボランティアに参加させ、セクシュアリティに関する活動を中心に、体験させその振り返りや学習をして来ました。HIVの教育に関して、なくてはならない性交渉やセクシュアリティの話がすっ飛んでいることや、そことはかけ離れている薬害エイズなどももっと伝えておくべきなのかもしれないと思います。グローバル視野の学校で性教育をなされて育つ海外の子と日本人の自分達について、話を聞くことが多く、もっと性教育をしておいて欲しかったと言われ、たび専門ナースの際に、1コマ時間をもりました。性に無頓着な故に、性被害に遭ってしまうケースも多く、また危険雨に会うことも多くありました。オブザーバーが故に言えることもあり、また活動に関しては保護者の方の許可をいただいての有志でした。論文指導も含め、フォローし、ちょっとずつ性病の話や、妊娠の心配の話など話してくれます。日本ではデリケートな話なので、担当して責任持ってお伝えしたいと考えています。
32. HIV看護に携わっていると必ず若者への予防啓発というテーマに行き着くが、どのように自分が関わっていったらいいのか…自分が関わる領域ではないのかも…などと考えることが多かった。でも今回の研修を受けて、看護師が伝えることに意味があると言ってくれる教育現場の先生方がいることを知り、自分の地域の先生（養護教諭など）との接点を持つことから始めたいと思った。また、現在行われている高校生への性教育の実態を自分の目で見てみなければ！と思った。新しく始めるには、関わるスタッフが少なく難しいと感じてしま

うが、現行のものにどうやって自分が関わっていけるかを考えていきたい。

②研修全般やHIV看護についてのご意見をお書きください

1. 初めてオンライン研修に参加させていただきましたが、とても有意義な2日間でした。基礎・専門知識をあらゆる専門家の方から教えてもらい、さらには当事者の方の話やピアサポーターやボランティア団体の方のお話も聞かせてもらい、今後の支援の参考になりました。これからも常に学びを深めつつ、寄り添える支援に励んでいきたいと思います。本当にありがとうございます。
2. 土曜日しか参加できずとても残念だったのですが、1日でもすごく意義のある研修となりました。ありがとうございました。
3. コロナ下での研修、ありがとうございます☑ 社会問題に密接に関わるので、今後ともよろしくお願いします
4. 部分的にしか参加はできませんでしたが、年齢の異なる世代とのブレイクタイムは楽しかったです。医療者としての視点から、もっと地域に目を向けできることを考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
5. 今回は、zoomでの研修ということで、知識を得ることはできましたが、やはり実技がないというところは残念でした。チャットで質問ができるというのは、発言しやすくよかったです。
6. 性の多様性について深く学ぶことができた。また、自身の性活動のとらえ方も少し変わったように思います。
7. 今回の研修においては性について自分自身深く考えることができるようになりました。私は小学生の時から高校までHIVについて同性愛者に多いということは知りませんでした。HIVはセクシュアリティやプライバシーなど多くの問題に関わり合っており、養護教諭として知っておかなければならないと深く感じました。これを機会に、自分でも子供たちにどういったら分かりやすく伝わるのか、もっと研究していこうと思いました。2日間本当にありがとうございました。
8. 研修を通して、HIVについても性のあり方についても自分の知識や考えを深めることができました。そして、自分や相手を守るために予防行動を行う大切さやそれを誰かに伝える大切さに気づくことができました。この研修で学んだことを、養護教諭として活かしていきたいと思います。
9. zoomを初めて利用しましたが、長時間PC画面に向き合って、通常の対面のようにブレイク時間もどこにも行けず自室であったので大変疲労いたしました。ただ、この社会の現状であっても、こうして研修を受けられることはとても生産的であると感じました。HIVに

ついては、いまだ圧倒的に男性罹患者が多いと知り、昨今のネット事情によって、昔であれば見つけにくかった同性パートナーを簡単に見つけられることで、セックスパートナーもすぐに出会えてしまうことも一因かと思いました。また、治療などに関しての助成があることでは、このまま10代から幅広い年齢層の感染者・治療者が増加することで、日本の保健医療は破綻してしまうのでは、と老人医療以上に恐怖を覚えました。コンドーム達人講座のような啓蒙は、すべての生殖行動可能な人たちに、とても重要であると思います。

またグループセッションでは、保健師やケースワーカーなど実際 HIV 感染者および罹患者と関わり、身近なサポートや治療に携わっておられる方々のお話を具体的に聞くことができました。地域に出て思春期教育をされている助産師の方にも、昨今の学校事情などもお聞きでき、大変有意義な2日間となりました。ありがとうございました。この分野にとっても興味が湧きました。

10. ZOOMでの研修に初めて参加しましたが、とても楽しかったです。研修会所について、数日間ある研修に参加することは、家族や仕事の都合で難しいこともありますが、直前まで自宅ですごし、時間を有効活用ができる新しい学習方法だとも思いました。HIV 看護については、様々な年代で様々な課題があると思いますが、若い世代のメッセージの伝え方という視点で、教育や地域との連携という角度から知ることができて有意義でした。病院や地域、介護など様々な場面で情報共有や意見交換ができる学習会などもあれば参加したいと思いました。研修のグループディスカッションですが、慣れていない事もあり少し話題に困ることもあったので、もうすこしテーマとかあると話しやすいのと、司会やファシリテーションできる人がグループに入っていると有意義な意見交換ができるのではないかと思います。今回この研修を通して、自分の中での知識の間違いや偏見についても考える機会となりました。この研修に参加できてよかったと思います。この学びを患者さんへ返していけるようにがんばりたいと思います。ありがとうございました。
11. 長時間の ZOOMでの研修は初めてだったので、操作方法にやや自信がなかったり、グループセッションで誰が進行役をしたらいいのかわからず、話をしない時間が長くなってしまい、残念だったなあと思いました。HIV に関して、私が学んだのはもう20年近く前になってしまい、そこから情報更新はできていなかったもので、今回とても勉強になりました。普段、病院勤務もしておらず、積極的に勉強する環境にないため、わからない言葉などがたくさん出てきて。。。なんだったっけ？？と調べたり、復習しながら聞かせていただきました。ありがとうございました。最新の統計データをとってくる場所なども教えていただいたので、今後、活用さ

せていただこうと思っています。本当に貴重な時間ありがとうございました。

12. 当事業所では、訪問看護で対応したケースが1例しかないのですが、今後も依頼があれば当たり前に受けていく予定です。広島県では広島大学病院の丁寧なサポートがあり、安心して対応していくことができました。今後、親御さんだけでなく当事者の高齢化も進んでくることから、HIV 看護の中でも訪問看護の視点でのサポート体制、病院看護との連携などいかがでしょうか。薬害 HIV 感染被害者については、「薬害 HIV 感染被害者健康訪問相談事業」がありますが（当事業所でも登録していますが相談ケースはありません）これ以外の方は利用することができません。唯一の窓口が治療病院ならば、病院と地域の連携がしっかりしていれば、患者さんも親御さんも多少なりとも安心できるのではないかと思います。研修会に参加させていただきありがとうございました。
13. これから養護教諭になります。講座を受ける前は、出前講義はどのようにするのか、どうやってお願いするのか、などわかっていない部分がたくさんありました。今回の講義を聞いて、不安がとても解消されました。また、少人数で話す機会をいただき、実際現場でどう出前講義をしているのか助産師さんに教えていただくこともでき、とても学びになりました。今回学んだことをこれからたくさん生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
14. 2日間ありがとうございました。コロナの影響で失ったものも多い世の中かもしれませんが、私は、色々な方と zoom などを通して関わる機会が持て、得るものがすごく多かった、多いと感じています。なかなか、この講義にも参加したいけど、スケジュールが合わなくてと諦めていましたが、今年度は参加出来て本当に嬉しかったです。同時に、知識不足、まだまだ学ぶべきことは沢山ある…を実感致しました。本当にありがとうございました。
15. 知識をより広く、深く知るきっかけになりました。HIV や性に関する問題に偏見の目を持つのではなくどのように考え行動していけば良いのかを学ぶことが出来ました。ありがとうございました。
16. 初めての Zoom 研修でした。接続テスト日は、勤務中だったので、研修当日に初めて接続しました。なかなか音がでず、最初の方の講義は、聞き取れませんでした。自宅にしながら研修を受けられるのは移動時間のロスがなく良かったと思います。スマホからの参加だと、ワークショップで画面共有が出来ずに、グループの方にはご迷惑をお掛けしましたが、対面の時とは違って、毎回、グループメンバーが変わるので、色々な方と話せる機会が持てたのは、とても有意義で貴重な時間でした。グループは、4人から5人位までの方が話しやす

いかなと思いました。二日間、とても楽しくて中身の濃い研修をありがとうございました。

17. オンライン講座のおかげで、今回、受講することができました。HIV 看護の知識が、ゼロだったところから、2日間で 50/100 ほどの知識を得ることができました。あとの 50/100 の当事者の実際の苦しみを知ることにはなかなか難しいことだと思いますが、なかなか表にならない具体的な苦しみを知りたいと思いました。しかし、「がん」は誰もが知っている病気ではあるが、周りに隠している人も多く、一方で、周りにオープンにしたことで退職となってしまうたり、生き辛くなってしまうという現状もある点は、HIV 陽性者の苦しみと似ているなと思いました。HIV に限らず、誰にも正しい情報を知ってもらうことや、あらゆる当事者が独りではないと感じ、安心して暮らせるための支援は日本中にまだまだ必要だと感じました。佐保先生、講師の先生、2日間ありがとうございました。
18. 自分の知識や態度が古い時代のものであったと気づいた。学生さんたちがしっかりした意見を持っていて、感心した。HIV に関しては、学生たちの方が最新のことを知っていた。
19. msw として実務に当たっています。啓蒙啓発で出会う専門職の方々は、ある意味、学ぼうと門戸を開いてくださっている方なので、そうではない幅広い一般の対象への啓発を意識してみたいと思います。とても学ばせて頂きました。ありがとうございました。
20. 研修を通して HIV や AIDS、性の多様性など正しい知識を学べて本当に良かったです。HIV 陽性者の方と関わる時には今回学んだ事を生かしていけたらと思っています。
21. 正直、この研修に参加するまで自分の知識は、数十年前の看護学校での講義内容のままだったように思います。HIV や AIDS の現状を学び、自分の間違った知識や偏見を見直す機会になりました。看護師は一般病棟で勤務していると、そこによく入院してくる患者さんの疾患に目が行き、その学習を深めていく傾向にあります。患者さんが置かれている状況や背景に性の多様性等も含め考えられるスタッフの育成にも努めていく必要があると改めて思いました。外部の研修を ZOOM で受講するのは初めてでしたが、少人数のグループワークで意見交換をする時間もあり、様々な環境下で働く医療職や学生の方と話をする機会が持て、良かったです。参加者も ZOOM に慣れていない方が多かったのか、限られた時間でのグループ内でのディスカッションを有効に進めていくことができず、ちょっともったいないなと感じる部分もありました。しかし、これも今後 ZOOM 会議や研修が増えてくることが予想される中、良い学びになったと思います。2日間、性や HIV に関することを深く学ぶ機会をいただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。
22. 研修を受講し、医療者や転院先施設への出前講義、通院して来られる HIV 患者さんの看護に視野が狭まっていたと感じました。中学生、高校生などの性教育や、地域、ピアサポートの現状や、コロナで変化したことなど知る事ができ、今後の課題や活動を考える機会となりました。自分自身多様化する性、社会に合わせ変化していきたいと思います。
23. HIV・AIDS について初めて知ることもあり学ぶことがたくさんありました。特に HIV・AIDS に対してまだまだスティグマがあるのだと驚きました。今後も HIV・AIDS についての啓発や教育が必要であり、私もその役割を担っていかなければならないと強く感じました。オンラインでしたが、様々な職種、年代の方ともお話しする機会があり、貴重な体験となりました。ありがとうございました。
24. 知っているつもりで知らないこともたくさんでした。今後も学び続けたいと思います。
25. 出前研修という内容に興味を持ち、参加させて頂きました。職種や年代で知識の幅が異なり、感じ方も変化してくるという部分を、表現の工夫で丁寧に対応されている研修プログラムや DVD が大変勉強になりました。ワークショップもオンラインでも行えるように工夫して頂けたことに感謝申し上げます。この度、研究の最終年度にこの研修会に参加できたことを心より嬉しく思います。ありがとうございました。
26. HIV について最新治療について聞けたので勉強になった。若者への予防教育をしているのを知れて良かった。ただ聞くのではなく、専門学校や高校生が自分達の言葉で伝えるという手法はそれぞれの知識がより深まると思うし、水の交換は実験や体験を通して理解できるのでとても良い方法だと思った。厚生労働省の人達に向けてですが、HIV について、最新治療等をテレビやマスコミ、ネット、YouTuber 等と連携して分かりやすく伝えたら良いのに。皆、病気の事を知らないから偏見や恐怖で検査をためらうんだと思う。
27. 様々な面から、HIV という病気を知ることができて、とても学びになりました。大学の知識だけでは、基本的な情報だけで、今、HIV に対する研究は進んでいて、薬も少量となり、性行をしても感染しないところまで、治療できることを知りませんでした。また、予防薬まで出ていることや、具体的な症状、現状について知れて、より深く HIV を知ることができました。そして、青少年に HIV をどう学んでもらっているのか、自らが経験しながら、知ること、今後の教員として役に立つと思いました。
28. HIV・AIDS についてこれまでも学んできましたが、今回の研修で自分が誤解していたことも明らかにできました。新型コロナ禍における HIV 感染の状況の変化も

知り、最新の正しい知識を取り入れていき、社会や患者さんが抱える課題に対して自分はどのような役割を果たせるのか、考え続けていくことが大切だと思いました。患者さんの声を聴く姿勢として、「心をニュートラル」にするというお話が印象的でした。患者さんを先入観なくありのまま受け止めたうえで、必要とされている支援への理解を進めていくことが大切であると学びました。また、個人的に HIV の母子感染予防についてさらに学びを深めていきたいと考えています。

29. とても勉強になる講義ばかりで、知識・技術ともに成長できました。性に関する話や HIV/AIDS については、話しづらく、世の中の既成概念や偏見もあり、とても難しい分野だと再認識しました。しかし、正しい知識理解と的確なサポートで支えていくこともできると知りました。医療現場でも HIV/AIDS について詳しく知らないスタッフが多いように思います。もちろんそうした人たちも同じように考えていると思うので、今回の研修で学んだことを共有、フィードバックして、少しでも HIV/AIDS に対する認識を正しいものにできれば、患者への関わりやサポートもより良いものになると思ったので、実践に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

30. HIV/AIDS の知識（日本の現状、感染経路、治療方法など）を詳しく学びたい、また、養護教諭として現場の児童生徒に HIV/AIDS に関して何を伝えていけばいいのか理解を深めたいと思い参加しました。2 日間通して内容の濃い講義を受けることができましたし、勉強不足な分野があることも発見できました。特に印象的だったのは、コロナ禍でお金を稼ぐために MSM の数が増えたというお話や、性の多様性のところで性分化疾患について初めて知ったこと等です。大学で性の多様性を学び、自分は尊重できていると思っていても、まだまだ知らないことはあるので「多様性」を真に理解出来ているとは言えないと感じました。これからも勉強します。また、性に関する話題に対してオープンな人もいれば、反対に耳を塞ぎたくなる人もいるというお話をグループトークの時にお聞きし、はっとしました。子どもたちの前に立って教える時には、一人一人の表情を見て気になる子がいればフォローしたり、説明する時の自分の言葉や態度まできめ細かく考えて準備したりして、怖い、辛いなどの思いをせずに前向きに学べる環境作りをしたいです。

31. とても有意義でした。ありがとうございました。看護・養護の学生たちと一緒に参加でき、若い人たちのしっかりした発言に刺激されました。

32. お昼に上映していた DVD は情報が古すぎるのでアップデートの方がいいと思います。

33. 2 日間、昼休みも DVD を流すなど、タイトなスケジュールで準備が大変だったかと思っています。どうも有難うご

ざいます。

34. 結局、人としてなのかなと思います。なので、もちろんその前には、知識が必要だなと感じています。偏見などは、無知の知からくるものなら知識を得ること、そこにいるってことを身体に近い感覚で、知ってもらえたらいいな～と思います。今回、臨床を離れているので、いろいろ勉強になりました。有難うございました。情報の収集場所などの提示があると助かります。偏ったデーターでは分析しにくいので・・・

35. 今回の研修は、一つ一つの内容が、今後自分が HIV のことを伝えていく上で参考になることばかりだった。（勉強会等で、伝えるべきポイントや興味深いエピソード、心に残るフレーズなど）

第21回 HIV サポートリーダー養成研修 (ZOOM オンライン)

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期 間	2020 年 10 月 2 日 (金)～10 月 3 日 (土)		
対 象	医療職・看護職・心理職・介護職・歯科衛生士・養護教諭・看護学部生等		
場 所	ZOOM を使用したオンライン研修ですので WEB につながるところならどこでも		
申し込み	裏面にある「こくちず」から申し込みとお問い合わせを受け付けます		
募集人数	男女50名	受講料	無料

プログラム

		講義名	講師名	施 設
第1日 10月2日 金曜日	9:30-10:20	近畿・大阪の HIV 感染の現状	永石真知子	大阪市保健所感染症対策課 副主幹
	10:30-11:30	HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター エイズ先端医療研究部長
	11:40-12:10	地域HIV看護の質の向上への戦略 受講者自己紹介	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	12:10-13:10	昼休憩 (60 分) DVD 上映「本気で CONDOMING」「介護職向け」		
	13:10-14:20	性の多様性	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科 准教授
	14:30-15:20	薬害エイズ	早坂典生	NPO 法人りょうちゃんず
	15:30-16:30	HIV 陽性者の支援 (地域、ピア)	繁内幸治	BASE KOBE 代表
第2日 10月3日 土曜日	9:30-10:30	HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センターHIV 専 従看護師
	10:40-12:00	DVD を使用した出前講義	大野典子	日本生命病院看護部 感染症看護専門看護師
	12:00-13:00	昼休憩 (60 分) DVD 上映「看護職向け」「養護教諭向け」		
	13:00-14:40	若者への HIV/AIDS 予防教育	HAATAS	HAATAS
	14:50-15:40	コンドーム達人講座 (知識と技 術)	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾管理者
	15:50-16:30	まとめ 受講内容証明書はメール添付送信 修了バッジは後日郵送		

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定 (学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位) の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者: 白阪琢磨) の分担研究「HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究」(研究分担者: 佐保美奈子) の研究費により、(公社)大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第21回 HIV サポートリーダー養成研修 調査票

研修、お疲れ様でございました。この調査は、皆様のご意見を取り入れて、次年度の研修計画の検討をおこなうために実施するものです。この調査の結果については、厚生労働科研の報告書や関連学会で発表する予定ですが、個人が特定されるようなことはありません。報告書は次年度の6月に研究班のホームページにアップされ、PDF がダウンロードできますので、ご確認ください。記入後の調査票を、回収箱に投入していただくことによって、調査への同意とさせていただきます。同意しない場合は、破棄してください。

次の1～3について、項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

1. 研修目標の達成度について

研修目標：セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

1 達成できた	2 ほぼ達成できた	3 一部達成できた	4 達成できなかった
---------	-----------	-----------	------------

2. 講義の内容の理解について

	【理解の程度】			
	1. 理解できた	2. ほぼ理解できた	3. 一部理解できた	4. 理解できなかった
1 日目	近畿・大阪の HIV 感染の現状			1・2・3・4
	性の多様性・思春期のセクシュアリティ（健康課題）			1・2・3・4
	HIV の最新治療			1・2・3・4
	薬害エイズ			1・2・3・4
	コンドーム達人講座（知識と技術）			1・2・3・4
2 日目	HIV 陽性者の理解と初期対応			1・2・3・4
	DVD を使用した出前講義			1・2・3・4
	若者への HIV/AIDS 予防教育			1・2・3・4
	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）			1・2・3・4

3. 研修前後の自分自身の態度の変化について

1. 大いにそう思う 2. そう思う 3. あまりそう思わない 4. まったくそう思わない		
	研修前	研修後
1 性のことを人前で話すのは恥ずかしい	1・2・3・4	1・2・3・4
2 自分自身の性についてきちんと向き合っている	1・2・3・4	1・2・3・4
3 HIV 看護について興味を持っている	1・2・3・4	1・2・3・4
4 性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
5 HIV 予防教育の出前講義に積極的に関わりたい	1・2・3・4	1・2・3・4
6 セクシュアルヘルスの増進について学びたい	1・2・3・4	1・2・3・4
7 職場で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい	1・2・3・4	1・2・3・4
8 グローバルな広い視点で看護を考えている	1・2・3・4	1・2・3・4
9 他者と深く関わることは喜びである	1・2・3・4	1・2・3・4

4. 看護職が地域の高校生に出前講義をおこなうことについて、職場の理解・自分自身の課題など自由にご意見をお書きください。

5. 研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

調査票へのご記入をありがとうございました。